

氏名	大岩 裕子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6125 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clitoral Blood Flow Changes after Surgery with Tension-Free Vaginal Mesh for Pelvic Organ Prolapse (骨盤臓器脱患者における TVM 術後の陰核血流変化)
論文審査委員	教授 増山 寿 教授 難波祐三郎 准教授 中村圭一郎

#### 学位論文内容の要旨

我々は Tension-Free Vaginal Mesh (TVM) が骨盤臓器脱 (POP) 患者の陰核血流と性機能に影響を及ぼすか検証するために、ドップラー超音波検査を用いて陰核血流を測定した。

POP に対して TVM 手術を受けた 22 症例を対象とし前向き研究を実施、陰核動脈の抵抗指数 (RI)、拍動指数 (PI)、最大収縮速度 (PSV)、拡張末期速度 (EDV) を術前及び術後 1、3、6 か月に測定し、女性の性機能は女性性機能指数 (FSFI) で調査した。

平均 PI と RI は術後 1 ヶ月で増加し、6 ヶ月で有意に減少、また RI、PI、PSV、EDV の 4 項目は、術後 6 ヶ月でベースラインまで回復した。総 FSFI スコアは、術前の  $10.2 \pm 7.9$  から術後 6 ヶ月の  $18.2 \pm 8.9$  に有意に改善した。

ドップラー超音波検査は、TVM で治療された患者の陰核血流を測定するのに役立つ可能性が示唆されたが、女性性機能障害の診断方法としての有用性を評価するには、前向きな長期研究が必要と思われる。

#### 論文審査結果の要旨

骨盤臓器脱(POP)の患者へ Tension-free vaginal mesh(TVM)手術が行われるが、性機能や陰核血流への影響についての報告は少ない。

本研究では、POP に対して TVM 手術を施行した 22 例について陰核動脈の血流を測定し女性性機能指数(FSFI)を調査したところ、血流は術後 1 ヶ月で低下し 6 ヶ月後には術前の状態まで回復し、FSFI は術前に比して術後 6 ヶ月では有意に改善したことが示された。

委員からは、陰核血流と FSFI の相関について質問があった。本研究者は、直接の有意な相関関係はないが、TVM 手術により FSFI は改善し手術による血流障害は術後 6 ヶ月で回復していたと説明するとともに、女性性機能障害の診断方法としての有用性はさらなる検討が必要と答えた。

本研究は、TVM 手術を受けた POP 患者のドップラー超音波検査による陰核血流測定について、重要な知見が得られたものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。